

1 ユニット名 **チャレンジ!子ども店員**

2 ユニットについて

**子どもの実態**

- 男子13名 女子15名 計28名
- 働くことが好きであり、自ら進んで係活動や当番活動に取り組むことができる。将来に対する夢を自分なりにもっており、「マイドリーム」や「チャレンジドリーム」活動に積極的に取り組む。
- 徐々に自分の特性を考えながら、将来の夢をとらえることができているが、あこがれやばくぜんとした思いの方が強く、夢もまだ流動的である。
- 自分の思いを伝えたり、友達の思いをきちんととらえたりすることが苦手である。行動面で指示を待つところがある。

**教師の思いや願い**

- 職場体験学習を通じて、働くことの大切さや誰かの役に立つことの素晴らしさを学び取ってほしい。
- 2年生の時に、地域を探検し、いろいろな施設や店を調べてわかったことを発表し合うことにより、地域への思いは深まっているが、実際に自分が働くことによってしかわからないことを学び取り、その体験を前の学習と結びつけて考えさせることにより、働くことの意義や喜びを感じ取らせたい。
- 学習活動を通じて、より地域の人々への関心を深め、感謝の気持ちをもたせたい。

**チャレンジ!子ども店員**

**ユニットとしての価値**

2年生では、「わたしの町はっ見（地域探検）」のユニットで、自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人や様々な場所と関わっていることを知り、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することの大切さを学習してきた。3年生では、その学習をもとに自分の夢に向かっていくための手立てとして、地域のお店で職場体験学習を行う。いろいろと見聞きするだけではなく、実際に働くことにより、お店の人の苦労や努力を理解し、人のために働くことの大切さを体験しながら、将来の夢の実現に必要なことや自分の特性（よさや課題）を見つめ直すための機会としたい。この学習を受けて、5年生では「伝えよう！わたしたちのいきいきかしわ台（地域の情報発信）」のユニットにつながっていくことになる。

3 ユニットのねらい

教科等での目標

- 《**かしわば学習**》「**チャレンジ子ども店員**」
- 地域のお店に関心を持ち、進んで授業に取り組んだり、体験学習に参加したりしようとする。 【**関心・意欲・態度**】
  - 施設での体験学習を通じて、お店の人の身になって物事を考えたり、その人たちの努力や喜びを理解したりする。 【**思考・判断**】
- 《**道徳**》「**ゆめにむかって**」
- やろうと決めたことを、最後までくじけずにやりとげようとする気持ちをもつ。
- 《**社会科**》「**私たちのくらしと市の人々の仕事**」
- ショッピングセンターの見学や調査を通して、販売の工夫や賢い買い物の在り方について

て理解する。  
 《**特別活動**》「**かしわだいフェスタの計画を立てよう**」  
 ○かしわだいフェスタの目的を理解し、進んで活動に参加する気持ちを持つ。

キャリア教育の視点からの目標

- 《**人とかわり活動する力**》
- 働くことの楽しさがわかる。
- 《**夢をつくりあげる力**》
- 施設見学・職場体験を通し、働くことの大切さや苦労がわかる。
  - 将来の夢や希望をもち実現を目指して努力しようとする。

4 ユニットの展開計画（総時数20時間）

過程	教科等	学習活動	指導の手立て	キャリア教育で育む力	評価
ステップ1 自分の夢を考えよう4	かしわば 3	○自分の夢を考えよう（3） ・オリエンテーションを通じて、ユニットのねらいや学習内容を知る。 ・それぞれの夢を確かめ合い、夢の実現に大切なことを話し合う。	○オリエンテーションを通じて、学習内容を理解させ、学習の見通しをもたせる。 ○自分の夢にむけて取り組んでいることを発表させながら、大切なことに気付かせる。	◎自分を見つめる力 ・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 ◎夢をつくりあげる力 ・将来の夢や希望をもち実現を目指して努力しようとする。	行動観察  学習シート
	道徳 1	○ゆめにむかって（1）	○オリンピックの競泳をもとに努力の大切さを学ばせる。	◎夢をつくりあげる力 ・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。	学習シート
ステップ2 働くということ6	社会科 3	○私たちのくらしと市の人々の仕事「店の仕事」（3） ・ライフステーションを見学し、販売の工夫や消費者の買い物の工夫、お客の様子を観察、調査する。 ・ライフステーションの見学をまとめ、働く人の様子や販売の工夫について調べたことを発表する。	○観点を決めて、見学をさせ、店の人の努力や工夫を理解させる。 ○班ごとに内容を整理して、発表会を行い、内容を深めるとともにお互いのよさを認め合う。	◎夢をつくりあげる力 ・いろいろな職業や生き方があることがわかる。 ◎人とかかわり活動する力 ・友達と協力して学習や活動に取り組む。 ◎自分で考え行動する力 ・自分の力で解決しようとする。	学習シート  行動観察  発言発表
	かしわば 3	○すてきな笑顔で働こう（3） ・ライフステーションの人たちが、どんな気持ちで仕事をしているのかをじっくり考え、自分が実際に体験活動を進める上でのめあてづくりをする。 <b>（本時）</b> ・自分の適性を考え、自分に合う仕事や挑戦したい仕事を考え「ライフステーション」での職業選びをする。	○見学してきた発表やビデオを鑑賞し合いながら、ライフステーションの人たちのお客様に対する気持ちを考え、働くことの大切さを学びとらせる。 ○キャリアアドバイザーを積極的に活用して、より内容を焦点化して取り上げられるように工夫する。 ○自分から進んで仕事を選ばせる。	◎人とかかわり活動する力 ・働くことの楽しさがわかる。 ◎夢をつくりあげる力 ・施設・職場体験を通し、働くことの大切さや苦労がわかる。 ◎自分を見つめる力 ・自分のやりたいこと、良いと思うことなどを考え、進んで取り組む。 ◎自分で考え行動する力 ・自分の力で解決しようとする。	学習シート  発言発表  行動観察  学習シート
ステップ3	かしわば 6	○ライフステーションで体験活動しよう（5） ・それぞれの分担に分かれて接客体験を行い、店の人の努力や喜びを正し	○それぞれの分担ごとに仕事内容を教わりながら、進んで体験活動に取り組ませる。	◎人とかかわり活動する力 ・働くことの楽しさがわかる。 ◎自分で考え行動する力 ・自分の仕事に対して責任を	行動観察

子ども店員にチャレンジしよう 6		く理解する。 ・ライフステーションでの活動を振り返り、自分の努力や友達の頑張りを認め合う。 ○礼状を書こう (1) ・ライフステーションでお世話になったみなさんに心をこめて、手紙を書く。	○お客に対する気持ちを大切にしながら取り組ませ、働くことや人に役に立つことの楽しさを味わわせる。 ○ライフステーションのみなさんや体験の日のことを思い浮かべながら、感謝の気持ちを込めて、ていねいに書式をそろえて手紙を書かせる。	感じ、最後までやり通す。 ◎夢をつくりあげる力 ・施設・職場体験を通し、働くことの大切さや苦勞がわかる。 ◎自分で考え行動する力 ・自分の力で解決しようとする。	発言 発表  手紙
ステップ4 自分の夢プランを考えよう 4	かしわば 2	○自分のゆめプランを見直そう (2) ・ライフステーションでの学習をもとに、これからの自分の夢の実現に向けて大切なことを話し合う。 ・がんばり宣言書づくりをする。	○ライフステーションで体験したことの中から、自分の夢の実現につながることをおさえ、今したいこと、したらよいと思うことを考えさせる。	◎夢をつくりあげる力 ・施設、職場体験を通し、働くことの大切さや苦勞がわかる。 ・あこがれの職業をもち、今しなければならぬことを考える。	行動 観察  学習 シート
	学活 2	○かしわだいフェスタの計画を立てよう。(2) ・学んだことを学校行事に生かす方法を考えて、計画づくりを進める。	○かしわだいフェスタでの接客の仕方や心構えを話し合い、ライフステーションの体験学習を学校行事の場に生かせるようにする。	◎人とかかわり活動する力 ・友達と協力して学習や活動に取り組む。 ◎自分を見つめる力 ・自分のやりたいこと、良いと思うことなどを考え、進んで取り組む。	行動 観察  学習 シート

## 5 視点について

### 視点1【学びの価値を味わわせる工夫】

#### 《ふれあい体験活動》

柏台小学校の学区内で4年間以上もシャッターが閉まったままになっていたスーパーマーケットの跡地に、「まちが好き、人が好き、くらしが好き」を旗印に地元有志の手により「ライフステーション (オニオン)」ショッピングセンターが一昨年7月にオープンし、地域活性化の拠点としての役割を担いながら3年目を迎えている。地域の店として、主に本校児童やその保護者が店を利用すること、また、本校のお母さんお父さん方が地元の有志として運営に携わっていることもあり、オープン以来、本校児童のキャリア教育や地域学習の場として「ライフステーション」で職場体験を実施させていただいている。この活動は、『いきいき柏台プロジェクト』の実践の場としての役割を担っており、「地域の良いところを知り、地域が好きになる子どもの育成」面でも大きな成果を上げている。児童は、毎年チャリティを目的とした「かしわだいフェスタ (学校行事)」で模擬店体験を実践しており、働くことの大切さや買い物の楽しさを経験しているが、基本的に児童同士の店屋さんごっこに近く、キャリア教育の観点からの学びは十分とはいえない。この点、「ライフステーション」における職場体験活動はより地域とのつながりを深め、かしわだいフェスタでは十分に感じ取れなかった、働くことへの思いや意欲を高めることができると考えている。その過程において、今まで感じなかった店の人の思いを身近に感じ取れるような心も育てていきたい。昨年までは、4年生で職場体験活動を行ったのだが、今年はさらに早い段階で児童の意欲を高めるとともに他教科との効果的なユニット構成を考えて、3年生で授業実践することとした。

ここでの体験活動は、今年度の学校行事のかしわだいフェスタの活動につながり、昨年度までとは違った販売体験活動が推進できると信じている。

また、児童のそれぞれの夢はショッピングセンターの販売員になることではないが、働くことの大切さや喜びの面で共通点が多く、ここでの職場体験が自分の目指している夢に対して、違った観点からの切り口や発想を与えてくれるものであると考え、単元の後半では自分の夢プランを見直していくこととなる。

## 視点2【個に応じた支援の工夫】

### 《ユニット構成の工夫》

本ユニットは、地域の良いところを知り、地域が好きになる子どもの育成をめざして単元開発した「いきいきかしわ台プロジェクト」の第2段階にあたる。1年生での「だいすき、かしわだだい小学校」の学習が、2年生の「わたしの町はっ見」につながり、より自分たちの町の施設や店の様子を詳しく調べ、互いに学んだことを広めあう活動を進めてきている。ここでは、それを受けて、発見から体験へと学習を深めることとなる。店の人の努力や喜びを感じ取ったり、働くことの大切さをつかんだりすることにより、より地域に対する愛着感や所属意識を深めていきたい。また、ここでの学びを自分の夢プラン作成へとつなげ、ただ体験しただけではなく、自分のキャリアプランニングにつながる単元にしたいと考えている。

ユニットを組むにあたり、地域学習と夢プラン作りに関連性のある題材のうち、道徳「ゆめにむかって」、社会科「私たちのくらしと市の人々の仕事」を内容に加え、自分の夢への思いを深めながら、職場体験をしたり、社会科で学んだことを実際の現場で体験したりできるように構成している。

また、本ユニットで学んだことが、この後実施する学校行事の「かしわだいフェスタ」での模擬店体験につながるように特別活動「かしわだいフェスタの計画を立てよう」をユニットに加えて、よりこのユニットのねらいをはっきりさせたいと考えている。

それぞれの教科、領域のねらいは、次のようになっている。

- （道徳） やろうと決めたことを、最後までくじけずにやりとげようとする気持ちをもつ。
- （社会科） ショッピングセンターの見学や調査を通して、販売の工夫や賢い買い物の在り方について理解する。
- （特別活動） かしわだいフェスタの目的を理解し、進んで活動に参加する気持ちを持つ。

ここでの学習が5年生の「伝えよう！わたしたちのいきいきかしわ台」につながる。1年生から学び、体験を重ねてきた地域学習において、地域の良いところや将来への町作りへの願いを自分たちなりに考え、地域学習のしめくりのために情報発信の手段を学ぶこととなる。

### 《キャリアアドバイザーの活用》

体験学習をより身近なものにするために、ライフステーション販売を体験した6年生を招き、販売活動をするときに困ったことや大変だったことを話してもらうことにした。児童たちにとっての経験は、かしわ台フェスタの模擬店体験だけであり、一般の大人を相手に販売活動をするのは初めての経験である。実際に販売体験をした身近な先輩にいろいろと困ったことや大変だったことを聞くことはとても理解しやすく、活動をより具体的に考えやすいはずである。お客様のことを考えて、自分がどのように関わることができるかと考えることを通じて、地域や人を思う心を育てたい。また、具体的な接客演習の段階でも6年生の手助けを得ながらさらに学習を深めていきたいと考えている。

## 視点3【評価の工夫】

### 《観点を明確にする学習シート》

毎時の学習シートをもとに、その日の学習内容を振り返り、自己評価ができるようにしたい。また、その内容をできるだけ発表し合える場を設定することにより、お互いを認め合い、それぞれの学習に向かう意欲を高めることができると考えている。学習シートにおいては、本校のキャリア教育で育みたい「なりたい自分になるための4つの力」も具体的な項目としておさえ、単にそのユニットや授業の学習内容や反省をまとめるだけでなく、育てている力や身につけようとしている力が何であるのか、どこまで身につけてきたのかを児童に意識させながら、その面での自己評価や相互評価もできるようにしていきたい。

6 本時の指導 (8/20)

(1) 本時の目標 (◎教科等 ☆キャリア教育)

- ◎ 店で働く人の身になって物事を考えたり、その人たちの努力や喜びを理解したりする。【思考・判断】
- ☆ 働くことの楽しさがわかる。【人とかわり活動する力】
- ☆ 働くことの大切さや苦勞がわかる。【夢をつくりあげる力】

(2) 展開

進	学習活動と内容	指導と評価 (◎教科等 ☆キャリア教育)	資料教具
導 入	1 本時のめあてを確認する。  すてきな <input type="text"/> ではたらこう！	○ステーションの販売体験を意識させる。	
展 開	○ライフステーション発表会の様子や紹介写真をお互いに見合いながら、学習内容を確認する。 ○かしわだいフェスタの模擬店体験の感想を出し合う。  ----- ありがとうって言われてうれしい。どきどき。わくわく。声かけがたりない。言葉にまよった。喜んでもらえた。募金がたくさん。 -----	○前時のライフステーション発表会で上手に発表できたグループに再度発表させることにより児童の意欲を高めるとともに、共通理解したことをもう一度おさらいして、次の発問に備える。 ○かしわだいフェスタの事後指導で書いた学習シートを利用して、それぞれの接客についての感想を発表させるとともにクラス全体で感じた思いをウェビングで表して内容を整理しておく。 ○買い手側の思いも引き出しておき、お客さんの気持ちにも気付かせる。売る時の手がかりになる言葉をチェックしておく。	掲示物 パネル 学習シート ウェビングシート 電子黒板
展 開	2 えがおのひみつを考える。 ○どんなことに気をつけるか。 ・フェスタから学んだこと。 ・ふだんの買い物から感じること。 ○子どもキャリアアドバイザーさんのお話を聞く。 ・お兄さんアドバイザー、お姉さんアドバイザーが実際の販売体験を話す。 ○店長さんからのビデオレターを観る。 ・ライフステーションの3人の店長さんからのビデオレター(売り子の秘密)を見て、話し合いを深める。 ○えがおのひみつに迫る。 ・お客さんを思う心。 ・にこにこ〇〇の秘密	○前の発問で出された児童の発言を手がかりに、売り子として売り場に立つときに大切な言葉を吟味していく。児童の大切だと気づいた行動や態度の根底には、お客様への強い思いがあることに気付かせる。 ○子どもキャリアアドバイザーを活用することにより、話し合いの視点が転換できるようにする。あらかじめ話してもらう内容やポイントを整理しておく。体験からでしか出てこない発言や思いを整理させておく。 ○「にこにこマルシェ」「にこにこカフェ」「パワーリハビリ」の各店長さんからの接客の心得をビデオで見せ、さらに話し合いの視点を転換したり、深めたりすることによって、本当に大切なことを絞りこんでいく。形も大切ではあるが、それ以上にお客様を思う気持ちが一番大切であることに気付かせる。	掲示物 掲示物 電子黒板 ビデオ
展 開	3 接客体験をしよう。(演習形式) ○子どもキャリアアドバイザーさんをお客さんに見立てて、接客体験をする。 ・相手の気持ちを考えながら、応対する。 ・お客さんのことを大切に思う心を自分の態度に表わす。	◎店の人の身になって物事を考えたり、その人たちの努力や喜びを理解したりしているか。【思考・判断】 ○前述した子どもキャリアアドバイザーに登場してもらい、何名かの児童に接客体験に挑戦させる。マニュアルにとられない接客の形を「お客様を思う心」をもとに考えさせる。 ☆働くことの大切さや苦勞がわかるか。【人とかわり活動する力】 ☆働くことの楽しさがわかるか。【夢をつくりあげる力】	即興劇の用意
終 末	4 学習のまとめをする。 ○本時の学習を振り返り、学習シートにまとめの評価を行う。 ・学んだことを自己評価する。 ・互いのがんばりを評価し合う。	○自分なりの観点で、今日の学習を振り返らせ、良かったところや楽しかったことをその理由をおさえながら考えさせる。何名か発表させ、それぞれの良さがあることや考え方の違いを評価し合い、次の学習につなげる。	学習シート

